

第2回

Data Studioによる演習①

Data Studio とは

- Google社が提供する無料のBIツール
 - 2020年にGoogleがLooker社を買収して自社サービス化
 - Googleデータスタジオ → Googleデータポータル → Looker Studio → Data Studio(日本語名: データポータル)とサービス名が度々変更
 - Googleの他サービス(Googleドライブ、Googleスプレッドシート等)との連携が容易
 - ダッシュボードと呼ばれるレポート画面に多数のグラフを配置し、コントロールと呼ばれる部品を使用して表示が制御できる
 - 1つのレポートを複数のページに分けて、タブなどで切り替えることができる。
 - 利用にはGoogleアカウントが必要



Data Studio

英語名



データポータル

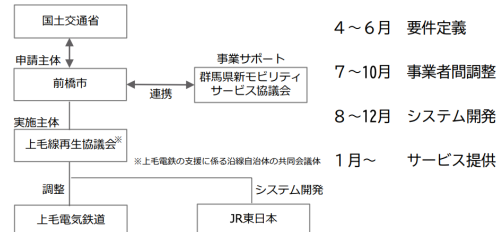
日本語名

Data Studioの活用事例

● 国土交通省：令和7年度「日本版MaaS推進・支援事業」採択事業

4 前橋市MaaS環境整備(上毛電鉄IC機能導入)事業 | 群馬県前橋市

課題	● 地域住民の重要な交通の足である上毛電気鉄道について、原則紙チケットの利用になっているため、ODデータが取得できず、行動分析ができない ● 行動分析ができないため、交通計画等で適切な計画を立てるのが困難	
プロジェクト概要	[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)] ● GunMaaSを活用し、上毛電気鉄道でのデジタルチケットサービスを構築する。具体的には、上毛電気鉄道の車両等に交通系ICユニットを搭載し、交通系ICカードでの決済・認証サービスを実現できる。ODデータ及び属性情報の取得が可能となるため、IC企画券の造成や割引属性の対象等を検討する上でのデータを取得できる。 ● 交通系ICユニットは地域連携バスユニットを採用することで、自動改札機と比べて安価な仕組みでサービスを実装する。 [モビリティデータの取得と活用] ● 上毛電気鉄道の交通系IC認証実績をID-PORTに蓄積する機能を構築する。当該実績を踏まえ、今後の割引率等、サービス内容のブラッシュアップを検討する。さらに、持続可能な公共交通社会の構築に向け、例えば特定居住地や年齢に応じた運賃の助成割引など、鉄道利用の活性化についても検討する。 [地域交通政策等との連携] ● 上毛電気鉄道のODデータを分析し、結果を交通計画の評価に生かすことを検討する。 ● 真に助成を必要とする市民に交通助成サービスを提供できる仕組みを構築し、公共交通利用機会の創出を図ると同時に、手法をデジタル化することで事務負担軽減とデータ取得環境構築を図る。	事業エリア / 交通事業 事業エリア：前橋市 鉄道：上毛電気鉄道 MaaSアプリ等 ● MaaSプラットフォーム：モビリティ・リンクージ・プラットフォーム(JR東日本のプラットフォーム) ● フロントエンド：GunMaaSWebを改修 ● マイナバーカード認証：mytap(TOPICが運営する本人認証アプリ) ● 経路検索機能：mixway API(ヴァル研究所の経路検索API) ● ダッシュボードシステム：Google Looker Studio データの活用等 ■ データの取得方法：GunMaaS会員の交通系ICカード認証によるODデータ取得(認証端末からID-PORTへODデータ通知) ■ データの活用方法：ODデータをLooker Studio上で可視化し、今後の交通計画に活用
効果	● 上毛電気鉄道で紙チケットを購入する必要がなくなるため、利用者の利便性が高まる。 ● 交通の利用実績が見える化されるため、将来の効果的な交通再編に寄与できる。 ● 割引施策遂行にかかる事務負担が軽減され、時間効率が向上する。	座組
事業の新規性	■ 地域連携バスユニットを鉄道車両に設置した事例は他にないため、新規性が高い。 ■ 地域の路線バスにも地域連携バスユニットが導入されているため、将来的に鉄道とバスが一体となったサービスの構築も検討可能と考えている。	スケジュール



MLIT

Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.

出典：国土交通省 <https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001883205.pdf>

演習の準備①

- Webブラウザ(Edge/Chrome等)を起動し、Data StudioのURL(<https://datastudio.google.com/>)を開いてアクセスする。
- 「USE IT FOR FREE」ボタンをクリックする。 USE IT FOR FREE
- Googleアカウントのログイン画面(下記)が表示されるので、メールアドレスを入力して「次へ」をクリックする。
 - さらにパスワードを入力して「次へ」をクリックする。
 - 2要素認証が有効で、携帯電話のSMS認証が必要とされた場合は、携帯電話番号を入力して認証コードを受け取って対応してください。

ログイン

データポータルに移動します

メールアドレスまたは電話番号
xxxxx@gmail.com

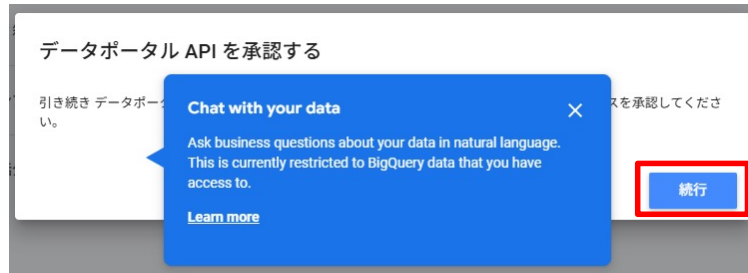
[メールアドレスを忘れた場合](#)

ご自分のパソコンでない場合は、シークレット ブラウジング ウィンドウを使用してログインしてください。 [ゲストモードの使い方の詳細](#)

[アカウントを作成](#) 次へ

演習の準備②

- Data Studioの管理画面が開くと、「データポータルAPIを承認する」という問い合わせが表示されるので「続行」をクリックする。



- 「アカウントを選択してください」と表示されるので、自分のアカウントをクリックする。



- 5 -

演習の準備③

- Data Studioの管理画面(下記)が開けば準備完了。



- 6 -

シナリオ

- 架空のスーパーマーケット(首都圏チェーン店)の売上(POS: Point of Sales)データをData Studioで可視化する
 - デスクトップ上のエクセルファイル「sales.xlsx」を開いて確認する

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	sales_ymd	receipt_no	receipt_sub_no	product_cd	quantity	amount	category_major_cd_x	category_medium_cd_x	category_small_cd
2	2025-05-16	112	1	P090202065	1	890	9	902	90202
3	2025-05-16	112	2	P070406009	1	88	7	704	70406
4	2025-05-16	1102	2	P070703028	1	188	7	707	70703
5	2025-05-16	1112	1	P080401035	1	225	8	804	80401
6	2025-05-16	1112	1	P050101005	1	145	5	501	50101
7	2025-05-16	1112	2	P050101001	1	40	5	501	50101
8	2025-05-16	1112	2	P050101001	1	40	5	501	50101
9	2025-05-16	1112	2	P070304021	1	188	7	703	70304
10	2025-05-16	1132	1	P071401010	1	1200	7	714	71401
11	2025-05-16	1132	2	P040401007	1	258	4	404	40401
12	2025-05-16	1142	1	P070704007	1	98	7	707	70704
13	2025-05-16	1142	1	P050103008	1	128	5	501	50103
14	2025-05-16	1142	2	P070102001	1	278	7	701	70102
15	2025-05-16	1142	2	P071005012	1	102	7	710	71005
16	2025-05-16	1152	1	P071005010	1	102	7	710	71005
17	2025-05-16	1152	2	P050301034	1	248	5	503	50301

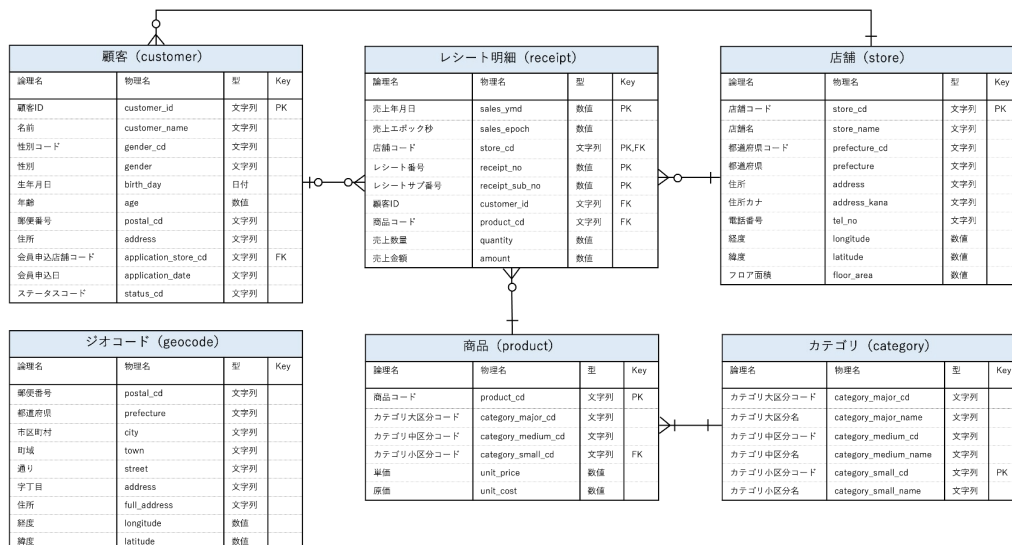
※データの出典: 下記の2次利用可能データを加工して使用

森谷, 鈴木, 「データサイエンス100本ノック(構造化データ加工編)」, ソシム, 2022年4月,

<https://github.com/The-Japan-DataScientist-Society/100knocks-preprocess/tree/v2.0> - 7 -

シナリオ(補足)

- 元データはRDBMS用に6つのテーブルに分かれている
- レシート明細を軸として必要な列だけ残して結合



※データの出典: 下記の2次利用可能データを使用

森谷, 鈴木, 「データサイエンス100本ノック(構造化データ加工編)」, ソシム, 2022年4月,

<https://github.com/The-Japan-DataScientist-Society/100knocks-preprocess/tree/v2.0> - 8 -

sales.xlsxの列定義 ①

列名	説明	データ例
sales_ymd	売上年月日	2025/05/16
receipt_no	レシート番号	112
receipt_sub_no	レシートサブ番号	1
product_cd	商品コード	P090202065
quantity	売上数量	1
amount	売上金額	890
category_major_cd_x	商品カテゴリ大区分コード	9
category_medium_cd_x	商品カテゴリ中区分コード	902
category_small_cd	商品カテゴリ小区分コード	90202
unit_price	商品単価	890
unit_cost	商品原価	668
category_major_name	商品カテゴリ大区分名	洗剤
category_medium_name	商品カテゴリ中区分名	石鹸・シャンプー・リンス
category_small_name	商品カテゴリ小区分名	ボディシャンプー

- 9 -

sales.xlsxの列定義 ②

列名	説明	データ例
store_name	店舗名	東野店
prefecture	店舗都道府県	千葉県
address_x	店舗住所	千葉県浦安市東野一丁目
address_kana	店舗住所カナ	チバケンウラヤスシヒガシノイツョウメ
tel_no	店舗電話番号	047-123-4004
longitude	店舗経度	139.8968
latitude	店舗緯度	35.65086
floor_area	店舗フロア面積	1101
customer_id	顧客ID	CS008414000039 (非会員: ZZ0000000000000)
customer_name	顧客名	土屋 りえ (非会員: 空欄)
gender	顧客性別	女性 (非会員: 空欄)
birth_day	顧客生年月日	1971/7/11 (非会員: 空欄)
age	顧客年齢	47 (非会員: 空欄)
postal_cd	顧客郵便番号	157-0067 (非会員: 空欄)
address_y	顧客住所	東京都世田谷区喜多見 (非会員: 空欄)

-

Data Studioへの取り込み

- Webブラウザ(Edge/Chrome等)で新規タブを開き、自身のGoogleドライブ(<https://drive.google.com/drive/home>)にアクセスする。
- 自身のGoogleドライブに、「sales.xlsx」をアップロードする。



- Googleドライブで「sales.xlsx」を開き、「Googleスプレッドシート」形式で保存する。



ExcelファイルをData Studioに直接取り込ませることも可能ですが、1回限りの取り込みとなります。Googleスプレッドシート形式であれば、その後シートにデータが追加された場合、随時ダッシュボードも最新データで更新されます。

- 11 -

レポートの新規作成

- Data Studioでは、レポートという単位でダッシュボードを作成する。

- Data Studioの管理画面で、「作成」の「レポート」をクリックして、新規レポートを作成する。



- 「国」「会社名」を入力し利用規約に同意して「続行」する

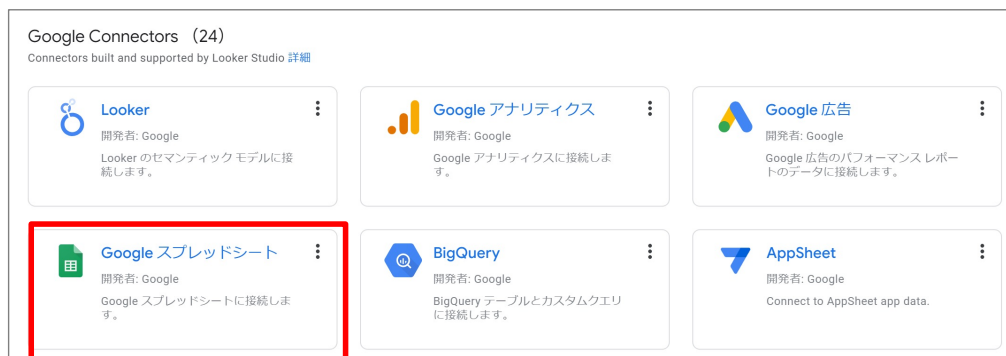
- 会社名は後から変更ができないので注意

- 更新情報の受け取りを選択して「続行」する
- すべて「いいえ」で「続行」する

- 12 -

データソースの追加 ①

- 「無題のレポート」が新規作成され、「データのレポートへの追加」メニューが表示される。
- レポートに紐づけるデータ(データソース)を選択する。今回は、下記の低順でGoogleドライブに保存した「sales」を選択する。
 - メニューから「Googleスプレッドシート」を選択する
 - Googleスプレッドシートのアクセス権の許可を「承認」する



Looker Studioに Google スプレッドシート
へのアクセス権を許可してください。

承認

- 13 -

データソースの追加 ②

- スプレッドシートとして「sales」を選択し、ワークシートとして「Sheet1」を選択する。
- 右下の「追加」ボタンを押す。

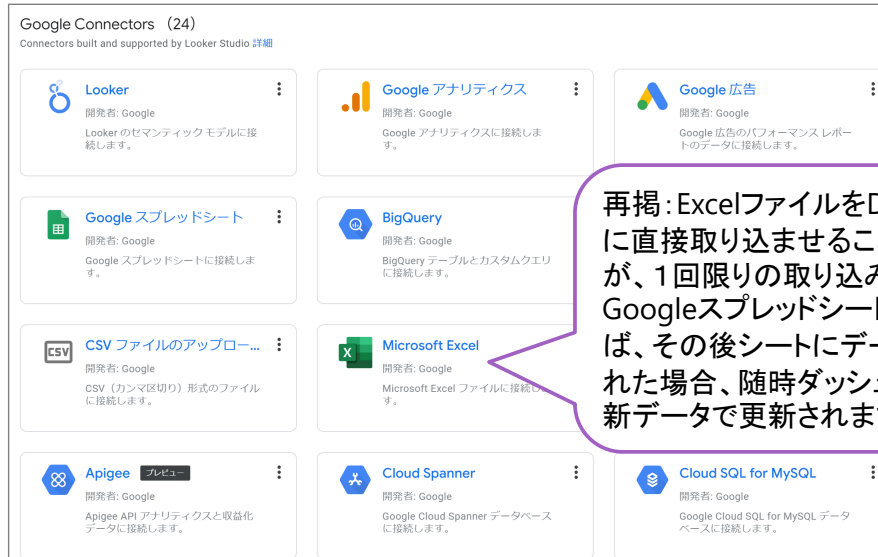


- 「このレポートにデータを追加しようとしています (You are about to add data to this Report)」と表示されたら「レポートに追加」を選択する。

- 14 -

データソースの補足

- Data Studioでは、大きく分けて3種類のデータに「コネクタ」と呼ばれる仕組みで接続してグラフを作成することができる。
 1. Google BigQueryやAmazon RedshiftなどのDWH (RDBMS)
 2. GoogleスプレッドシートやCSVファイル・Excelファイルをアップロードしたデータ
 3. Googleアナリティクスなどの外部サービスのデータ

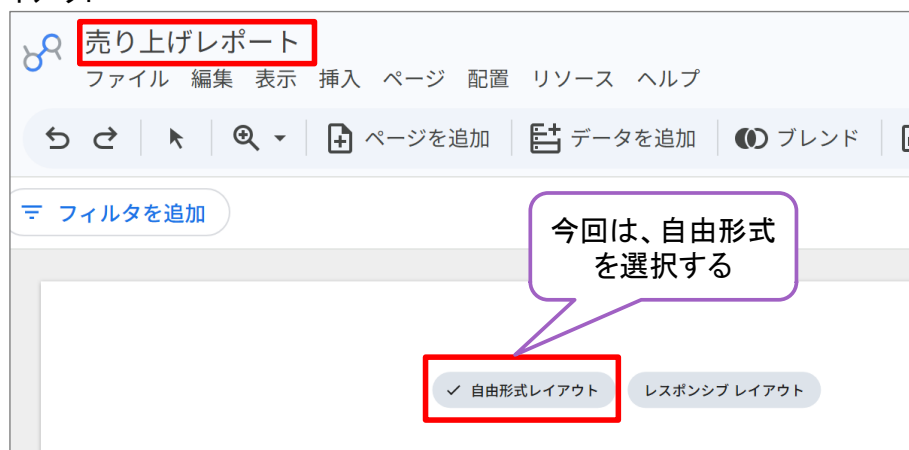


再掲: ExcelファイルをData Studioに直接取り込ませることも可能ですが、1回限りの取り込みとなります。Googleスプレッドシート形式であれば、その後シートにデータが追加された場合、随時ダッシュボードも最新データで更新されます。

- 15 -

レポートのレイアウト方式の設定

- 「無題のレポート」は、任意のレポート名に変更できる。
- グラフ等のレイアウト方式を選択する(後で変更も可能)。
 - 自由形式レイアウト
 - あらかじめページの幅と高さを固定で指定するレイアウト
 - さらに、表示するデバイス(PC/タブレット/スマホ)の画面の幅に応じてグラフのサイズが拡大縮小される表示モードと、常に原寸大で表示されるモードが選択できる
 - レスポンシブレイアウト
 - 表示するデバイスの画面の幅に応じて、グラフの大きさだけでなく配置も自動調整されるレイアウト



- 16 -

レポートの初期編集画面

- レポートは複数の「ページ」から構成される(初期状態ではページ数は1)
- ページ内のグラフを配置する領域を「キャンバス」と呼ぶ

The screenshot shows the initial report editing interface. Callouts point to various elements:

- 「あらかじめ「表」グラフが1つ追加されている」 (A table graph is added in advance.)
- 「現在選択されているグラフのデータ設定」 (Data settings for the currently selected graph.)
- 「現在選択されているグラフのスタイル設定」 (Style settings for the currently selected graph.)
- 「キャンバス」 (Canvas)
- 「フィールド(データの列名)の一覧」 (List of fields (data column names))

The interface includes a menu bar with options like 「ファイル」, 「編集」, 「表示」, 「挿入」, 「ページ」, 「配置」, 「リソース」, and 「ヘルプ」. A toolbar contains buttons for 「リセット」, 「共有」, and 「表示」. A sidebar on the right lists fields such as 「sales - Sheet1」, 「address_kana」, 「address_x」, 「address_y」, 「age」, 「amount」, 「birth_day」, 「category_major_cd_x」, 「category_major_name」, and 「category_medium_cd_x」.

- 17 -

編集モードと表示モードの切り替え

- レポートは編集権限を持ったユーザのみ編集できる
- 編集権限の無い「閲覧者」にとって、どのように表示されるか確かめるには、右上の「表示」ボタンで表示モードに切り替える
- 「編集」ボタンで、編集モードに戻ることができる

編集モード

The screenshot shows the report in edit mode. The top right corner features a red box around the 「表示」 (Display) button. A large black arrow points from this button down to the 「編集」 (Edit) button in the next screenshot.

表示モード

The screenshot shows the report in display mode. The top right corner features a red box around the 「編集」 (Edit) button. The main content area displays a table with the following data:

	product_cd	Record Count
1.	P060303001	302
2.	P071401001	143
3.	P040503001	97
4.	P060101001	96
5.	P060101001	RR

- 18 -

テーマとレイアウトの設定 ①

- レポート全体のテーマ(配色等)と、レイアウト(キャンバスのサイズ等)の設定を行う
 - 「ファイル」メニューから「テーマとレイアウト」を選択する



- 19 -

テーマとレイアウトの設定 ②

- レイアウトタブ
 - レイアウトモード
 - 「自由形式」と「レスポンシブ」の切り替え
 - 表示モード
 - ヘッダーの表示設定
 - 上部のレポートタイトルの表示・非表示設定
 - ナビゲーションの種類
 - ページ切り替えのタブなどを何処にどのように表示するかの設定
 - 自由形式レイアウトの場合
 - 幅に合わせる...画面サイズに合わせてキャンバスを拡大縮小する
 - 原寸大...画面サイズによらずキャンバス幅を固定する
 - キャンバスサイズ
 - 印刷用紙サイズや、縦横のピクセル数で設定可能
 - この設定は、各ページの設定で上書き可能
 - 配置先
 - スマートガイド...グラフを配置する際に、他のグラフとの上下左右端や中心にガイドが表示されて位置を揃えることができる方式
 - グリッド...一定間隔のグリッドに合わせてグラフを配置する方式



- 20 -

ページ別の設定

- 個々のページで背景色やキャンバスサイズを変更することも可能
 - 「ページ」メニューの「現在のページ」を選択する

売り上げレポート
ファイル 編集 表示 挿入 ページ 配置 リソース ヘルプ

新しいページ Ctrl+M
ページを複製
ページを削除
現在のページの設定
ページの管理

現在のページの設定

設定を検索...

設定 スタイル

ページ

ページの背景

キャンバス サイズ

自動

幅 (ピクセル) 1200

高さ (ピクセル) 900

あらかじめ1800に変更しておく

- グラフを多く配置できるように、ページの高さをあらかじめ1800に設定しておく

- 21 -

グラフ設定の基本①

- あらかじめ追加されている「表」グラフを用いて、グラフ設定の基本を確認する
 - Data Studioでは、「表」もグラフとして扱われる
 - グラフの配置やサイズはマウスで調整できる
 - product_cdが「P060303001」の行(レコード)が302件あることを示している。

	ディメンション	指標
	product_cd	Record Count
1.	P060303001	302
2.	P071401001	143

- 重要な概念(ディメンションと指標)
 - OO別に△△の集計(合計や平均値の計算など)をしたいとする
 - OOの項目・・・「ディメンション」と呼ぶ
 - 集計の単位(例えば、商品ごと、顧客ごとなど)、次元
 - 値がそのまま表示される
 - △△の項目・・・「指標」と呼ぶ
 - 集計される項目(例えば、件数、売上などの計算可能な数値)
 - 何らかの集計が行われて表示される

- 22 -

グラフ設定の基本②

● 表のディメンションを「category_major_name」に変更してみる

- 表をマウスで選択する
- 編集画面右の「表のプロパティ」の「設定」のディメンションの項目を「category_major_name」に変更する
 - クリックして変更するか、データからフィールド名をドラッグする

	category_major_name	Record Count ▾
1.	瓶詰缶詰	3,722
2.	和日記	2,012
3.	パン・乳製品	1,992
4.	惣菜	985
5.	菓子	942
6.	洗剤	828

表のプロパティ

設定を検索...

グラフの種類 49 ▾

設定 スタイル

データソース

sales - Sheet1 ▾

データを統合 ⓘ

ディメンション

product_cd

ディメンションを追加

フィルダウン

データ

フィールドを検索...

sales - Sheet1

address_kana

address_x

address_y

age

amount

birth_day

category_major_cd_x

category_major_name

category_medium_cd_x

category_medium_name

category_small_cd

category_small_name

※和日記(わにつぱい)・・・「豆腐」などの毎日配送される日持ちしない日本独自の生鮮食品

- 23 -

グラフ設定の基本③

● 表にディメンションを追加してみる

- 「ディメンションを追加」をクリックし、「category_medium_name」を選択する

ディメンション

category_major_name

ディメンションを追加



ディメンション

category_major_name

category_medium_name

ディメンションを追加



	category_major...	catego...	Record Count ▾
1.	瓶詰缶詰	飲料	851
2.	パン・乳製品	パン	833
3.	瓶詰缶詰	タバコ	643
4.	和日記	水物	632
5.	瓶詰缶詰	和風調味料	427
6.	瓶詰缶詰	即席加工品	413
7.	和日記	練物	331
8.	パン・乳製品	デザート	323
9.	和日記	生麺	315
			- 57 / 57 < >

- ディメンションに設定した項目(フィールド)は、同じ組み合わせは全て一行にまとめられて集計されることがわかる

- 24 -

グラフ設定の基本④

● 表に指標を追加してみる

- 「指標を追加」をクリックし、「amount(売上金額)」を選択する

指標

AUT Record Count

+ 指標を追加

指標

AUT Record Count

SUM amount

+ 指標を追加

	category_m...	cate...	Record C...	amount
1.	瓶詰缶詰	飲料	851	126,553
2.	パン・乳製品	パン	833	109,178
3.	瓶詰缶詰	タバコ	643	977,800
4.	和日記	水物	632	82,098
5.	瓶詰缶詰	和風調...	427	106,322
6.	瓶詰缶詰	即席加...	413	63,903
7.	和日記	練物	331	65,496
8.	パン・乳製品	デザート	323	39,260
9.	和日記	生麺	315	45,180
			1 - 57 / 57	

- 表の横幅を広げたり、列のサイズを調整することもできる

	category_major_name	category_med...	Record Count ▾	amount
1.	瓶詰缶詰	飲料	851	126,553
2.	パン・乳製品	パン	833	109,178

- 25 -

グラフ設定の基本⑤

● デイメンション・指標の表示名や指標の集計の種類の変更

- デイメンションや指標の設定の左端をクリックすると変更できる

RBC category_major_name

RBC 商品大分類

参照元フィールド ID: n1400219854_

表示名
商品大分類

ソース フィールド: category_major_name

RBC 商品中分類

参照元フィールド ID: n2100456620_

表示名
商品中分類

ソース フィールド: category_medium_name

AUT 件数

表示名
件数

ソース フィールド: Record Count

SUM 売上金額

参照元フィールド ID: n1413853096_

表示名
売上金額

ソース フィールド: amount

データ型
123 数値

表示フォーマット
デフォルト

集計
SUM 合計

件数、合計、平均値、最大値、最小値などの集計の種類が選択できる

商品大分類	商品中分類	件数 ▾	売上金額
-------	-------	------	------

- 26 -

グラフ設定の基本⑥

● グラフ設定の基本の補足

● 「Record Count」フィールドとは何か？

- 元のsalesファイルには存在しないが、行数をカウントするために、LookerStudioが自動的に追加したフィールド
- 各行に1が入っているイメージ(下記はイメージ図)

	A	B	C	D	AD
	sales_ymd	receipt_no	receipt_sub_no	product_cd	Record Count
1	2024/1/1	1132		1 P059001001	1
2	2024/1/1	1132		2 P080201009	1
3	2024/1/1	1112		1 P080401035	1
4	2024/1/1	1112		2 P050101001	1

元のデータにはない
自動追加された行数
カウントのための
フィールド

● 設定の「期間のディメンション」とは？

- 表示するデータの期間を定義する基準となる日付フィールドのこと
- 表示する期間を「o年o月o日からx年x月x日まで」などと指定してフィルタをかけたい場合の基準となるフィールド
- 今回の例では売上日(sales_ymd)で期間を指定するのが自然で、顧客の生年月日「birth_day」で指定することは想定していないので、sales_ymdのままとする

● 設定の「並べ替え」

- 表示するデータを並べ替えたい基準となるフィールドを指定する
- 売上金額の多い順であれば右のように修正する

並べ替え

SUM amount

☒ 降順

☐ 昇順

- 27 -

グラフのスタイル設定の基本

● グラフのスタイル設定は「表のプロパティ」の「スタイル」タブで設定できる

- 「グラフのタイトル」の「タイトルの表示」を有効化し、「商品分類ごとの売上合計表」とタイトルを設定する

✎ 表のプロパティ

Q 設定を検索...

グラフの種類 49 ▼

設定 スタイル

グラフのタイトル

タイトルを表示



タイトル
商品分類ごとの売上

Te



商品分類ごとの売上合計表

	商品大分類	商品中分類
1.	瓶詰缶詰	タバコ
2.	瓶詰缶詰	米

- 「スタイル」タブでは、グラフの詳細な見た目(線・塗りつぶし・フォント・文字列の配置など)が調整できる
- 好みのスタイルに調整を行ってみる

- 28 -

テキストや図形の追加

- キャンバスには、グラフだけでなく、任意のテキストや図形（画像、長方形、円形、折れ線）が追加できる
 - 「挿入」メニューや、ツールバーから挿入できる

「挿入」メニュー（下方）



ツールバー



- 長方形やテキストを追加して、下記のようなヘッダを作成してみよう
 - 配色やフォントサイズなどは、右側の「プロパティ」で設定できる

Aマート売上レポート

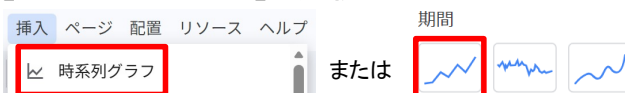
商品分類ごとの売上合計表

商品大分類	商品中分類	件数	売上金額
1. 瓶詰缶詰	タバコ	643	977,800

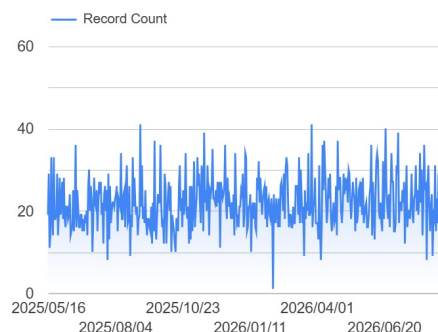
- 29 -

様々なグラフ・時系列グラフ①

- ある時間期間について、時系列的な変化を折れ線や棒グラフで可視化する際に「時系列グラフ」が使用できる
 - 横軸は時間的な期間
 - 年、年月、年月日など、期間の細かさ（粒度）が指定できる
- 例：年単位の売上合計の時系列変化を可視化してみよう
 - 「挿入」メニューから「時系列グラフ」、またはツールバーの「グラフを追加」から「期間」の「時系列グラフ」を選択する



- キャンバス上でグラフを配置したい場所をクリックする
 - 日付ごとに指標として「Record Count」の件数を合計した折れ線グラフが作成される



- 30 -

様々なグラフ・時系列グラフ②

- 指標を「amount(売上金額)」の合計、期間の粒度を「年」に変更してみよう

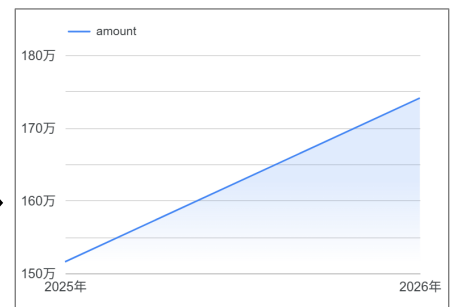
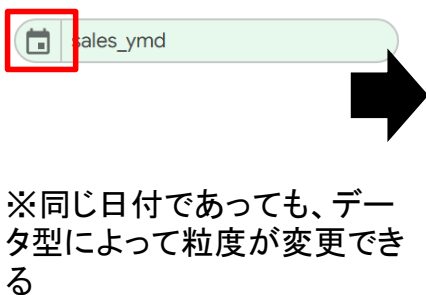
- 指標として「amount」を選択し、集計は合計(SUM)とする

指標 - Y 軸



- ディメンションの左ボタンをクリックし、データ型として「日付と時刻」から「年」を選択する

ディメンション - X 軸



- 31 -

様々なグラフ・時系列グラフ③

- グラフの系列のタイプを棒グラフに変更し、グラフのタイトルや凡例の調整を行ってみる

グラフのタイトル

タイトルを表示



タイトル
売上金額の推移

グラフのタイトルを表示

系列 1

系列のタイプ

☐ 折れ線

☒ 棒グラフ

線の色

棒グラフに変更

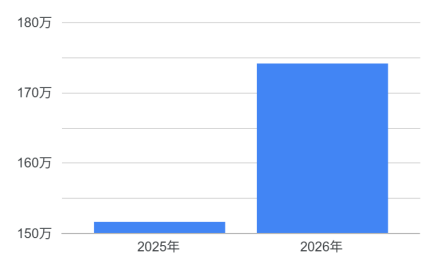
凡例

凡例を表示する



凡例の非表示

売上金額の推移



- 32 -

ドリルダウン

「深掘り」機能

- ディメンションの単位を細かくして、指標をもっと細かい単位で見たい場合に設定する
- 例:「売上金額の推移」のグラフについて、「年」単位だけでなく「年月」単位でも深掘りできるようにドリルダウンを設定しよう
 - ディメンションの「ドリルダウン」を有効にする
 - ディメンションを追加から、sales_ymdを選択し、データ型として「日付と時刻」から「年、月」を選択する

ディメンション - X 軸

sales_ymd (年)

ディメンションを追加

ドリルダウン

sales_ymd (年、月)

ディメンションを追加

グラフ上部のドリルダウン↓、ドリルアップ↑ボタンで、ディメンションの粒度を切り替えることができる

売上金額の推移

売上金額の推移

デフォルトのドリルダウンのレベル
sales_ymd (年、月)

※デフォルトのドリルダウンのレベルでディメンションの初期値が設定できる

- 33 -

クロスフィルタリング

- グラフで選んだ項目で、リアルタイムにフィルタをかけて集計することができる
- 例: 売上金額の推移のグラフ(ドリルダウン)「2026年9月(右端)」の棒をクリックすると、ページ内のグラフの集計対象が「2026年9月」に限定される
 - 売上合計表の売上金額も変化したことを確認する
 - フィルタを解除するには、グラフ左上のリセットボタンか、ページ右上のリセットボタンをクリックする

リセットボタン

売上金額の推移

売上金額

売上金額

リセット

共有

リセットボタン

ここをクリックする

期間全体

2026年9月のみ

売上金額	売上金額
977,800	9,200
159,452	2,025
158,410	1,650
147,514	1,114
126,553	1,102
109,178	942
106,322	868

- 34 -

様々なグラフ・円グラフ

- ある項目について、その絶対量ではなく、割合を可視化したい場合は、円グラフやドーナツグラフが適している

- 例：商品大分類ごとの売上合計の割合を可視化してみよう

- 「挿入」メニューから「円グラフ」、またはツールバーの「グラフを追加」から「円」の「円グラフ」を選択する



- キャンバス上でグラフを配置したい場所をクリックする

- ディメンションとして「category_major_name」、指標として「amount」を選択し、集計は合計 (SUM) とする

- スタイル設定でタイトルなどを調整する

ディメンション

ABC category_major_name

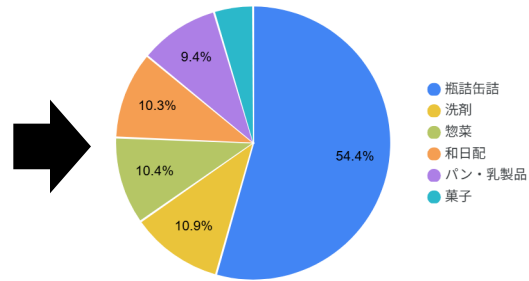
ドリルダウン



指標

SUM amount

商品大分類の売上割合



- 35 -

指標の補足

- オプションの指標

- 1つのグラフで複数の指標を切り替える機能

- 例：売上割合の円グラフについて、指標として件数の割合に切り替えられるようにオプションの指標を設定する

指標

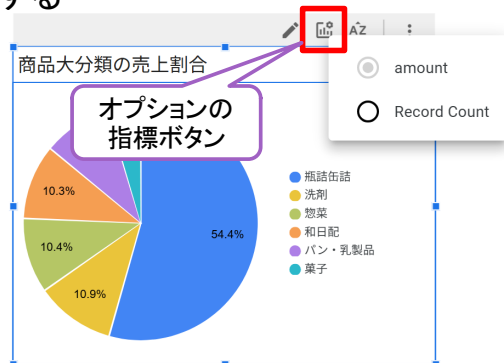
SUM amount

オプションの指標



AUT Record Count

指標を追加



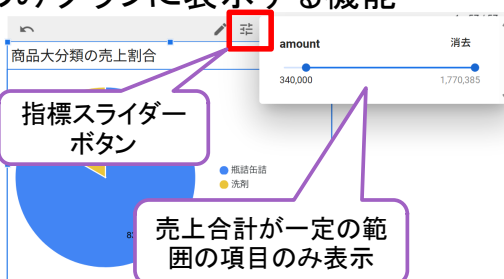
- 指標スライダー

- 指標の値が特定の範囲の項目のみグラフに表示する機能

指標

SUM amount

指標スライダー



※オプションの指標と指標スライダーは同時に設定できない

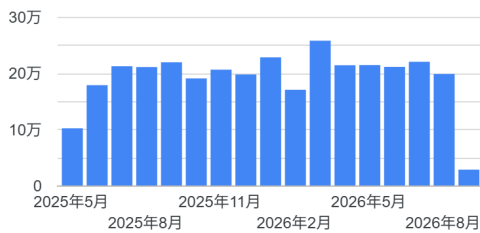
- 36 -

様々なグラフ・積み上げ棒グラフ①

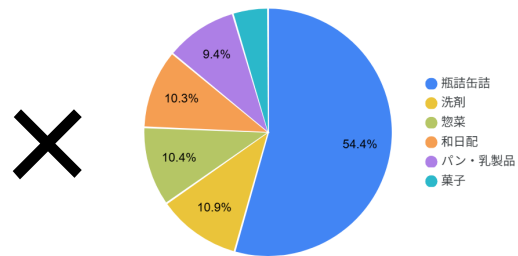
- 複数の項目や期間を並べて、その構成(絶対量や割合)を比較したい場合は、積み上げ棒グラフや100%積み上げ棒グラフが適している

- 例: 各年月での売上金額について、商品大分類の内訳を可視化したい
- ここまでに作成した期間グラフと円グラフを組み合わせたようなグラフを作成したい

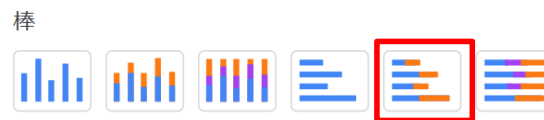
売上金額の推移



商品大分類の売上割合



- ツールバーの「グラフを追加」から「棒」の「積み上げ横棒グラフ」を選択する



- 37 -

様々なグラフ・積み上げ棒グラフ②

- キャンバス上でグラフを配置したい場所をクリックする
- キャンバスにグラフを配置する場所が足りなくなった場合は、メニューから「ページ」の「現在のページの設定」を選び、右側「スタイル」タブのキャンバスのサイズ「高さ」を増やす(例えば、1200)
- グラフのディメンション等は下記のように設定する
 - ディメンションは「sales_ymd」とし、データ型は「年、月」とする
 - 内訳ディメンションは「category_major_name」とする
 - 指標として「amount」を選択し、集計は合計(SUM)とする
 - 「表示」の「ディメンション」の「棒の数」は右の上限ボタンを押す

ディメンション - Y 軸

sales_ymd (年、月)

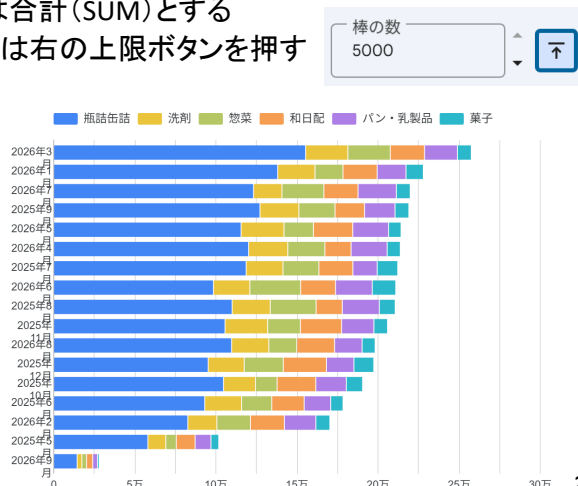
ドリルダウン ☐

内訳ディメンション

category_major_name

指標 - X 軸

amount



38 -

様々なグラフ・積み上げ棒グラフ③

- 縦方向の並びを、年月で並べ替える
 - グラフの設定の下方の「並べ替え」のフィールドとしてsales_ymd、データ型として「年、月」を選択する

